



学校教育目標 「生命(いのち)輝く子どもを育てる」
一心はほかほか、学びはしっかり、体ははつらつー」



とひの かふち

《学校だより》 第13号

令和4年11月1日発行
湯河原町立湯河原小学校
校長 北村和裕

10月22日(土)に運動会が開催されました。当日の朝、いつものように校門の所に立っていると、いつもとは違う光景でした。校舎や友だちの姿が見えると、走り出す子どもたちが何と多いことでしょうか。楽しみにしていた運動会がついにやってきて、子どもたちは心をうきうきさせながら校門の前を通過したのでした。今年もコロナ感染症対策として、保護者の皆様には参観者の人数制限や低・中・高での入れ替わり制などの制限を設けさせていただきましたが、ご理解・ご協力いただきありがとうございます。また、運動会終了後、後片付けのお手伝いをしてくださり、感謝申し上げます。



パワー全開 徒競走

走れ 踊れ 心でさけべ パワー全開 運動会

パワー全開で一生懸命に取り組む姿がいろいろな場面で見られ、何度も感動しました。徒競走では、どんなに差が開いてしまっても、また、つまずいて転んでしまっても、最後の最後までゴールに向かって力一杯に走る姿が印象的でした。表現は、どのブロックも素晴らしかったです。特に、子ども達一人一人の表情が素敵でした。満面の笑みを浮かべて踊る姿、真剣に演技する姿は、見ている側の心を動かしました。さらに、今年度新しく加わった学年種目は各学年で趣向を凝らし、運動の楽しさや勝負に対する執念が伝わってくるものでした。特に、高学年は、それぞれの学年で「やりたい種目」について子どもたちがアイデアを出し合い、話し合って決めたものでした。結果的にはどちらの学年も「綱引き」となりましたが、ただ参加するのではなく、子どもたちがみんなで創り上げる運動会をめざしたものでした。

運動会の舞台裏

新たに加わった「学年種目」

昨年、一昨年は、子どもたちが行う種目は徒競走と表現(学年ごと)でした。今年は、新たに学年種目が増えました。しかし、種目が増えるということは、それだけ時間がかかります。午前中開催なので、昼食が遅くならないように終了時刻は昨年のように11:45ごろにしなければなりません。学年種目を増やすけれど、時間内に収めるための方法を職員会議で話し合いました。そして、開会式を昨年より20分早めること、徒競走を2学年で続けて行うこと(例えば1年生が走り終えて退場すると同時に2年生が入場してすぐに始める)によって時間を生み出すことができると考え、学年種目を新たに加えたのでした。

練習場所の工夫

運動会の練習場所というと、運動場と体育館が思い浮かびます。しかし、本校にはまだまだ練習する場所がありました。まずは、渡り廊下です。2階、3階、4階のそれぞれに広い渡り廊下があるので表現や学年種目の動き、徒競走の並び方などを渡り廊下で行っている学年もありました。それから、中庭も練習場所になります。しかも、午前中は校舎の陰ができるので、暑いときなどは最適な練習場所です。



校舎とけやきの陰でそれぞれ練習

全校290人あまりが同じ時期に練習を行うので場所の確保が難しいはずですが、工夫することによって課題を克服してきました。

1年生から6年生までが一緒にやる小学校の運動会のよさ

運動会の翌週、1年生の帰りの会で担任の先生が「今度の体育は別のことをやります」というと「え～、またマツケンサンバ踊りたい」「早く2年生になりたい。また運動会やりたいから」という反応でした。一方、6年生は運動会が終わった後「他の学年にいいところを見せられた」「最後の運動会が最高の運動会になった」などの感想を持ちました。1年生と6年生とでは思いがこんなに違うのです。しかし、思いが違うからこそ互いに学びがあります。笑顔いっぱい夢中で参加していた1年生が、学年が進むごとにいろいろな演技の仕方を覚えたり、他の学年の演技を見て刺激を受けたりして成長していきます。そして、高学年になると見てくれる人を意識しながらの演技になります。低学年の子はあこがれ、中学年の子はやがて自分たちもという思いで高学年に注目します。こうして、1年生から6年生が運動場に集まって行う運動会を通して、縦のつながりができ、学校としての一体感が生まれていくように思えてなりません。



迫力満点 5・6年生

(その他、子どもたちの様子は学校のブログに掲載中)

<https://www.yusho.site/>